

※ 広川町第5次総合計画策定に向けた
各種調査結果報告書令和6年3月より抜粋

I 調査概要

I-1 調査の目的と実施概要

(1) 調査の目的

広川町総合計画の策定に向けたアンケート調査(以降、「本調査」とします。)は、新たな時代のまちづくりの指針として、新たな総合計画の策定にあたり、町民の意見・要望等を収集し、計画に反映させる基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 実施概要

本調査の対象及び配付、回収状況は、以下のとおりとなっています。

《一般町民調査概要》

- 調査対象：広川町にお住まいの18歳以上の方
- 抽出方法：調査対象より2,500名を無作為抽出
- 調査内容：新たなまちづくりに関すること
 - 1. あなたご自身のことについて
 - 2. 広川町での暮らしについて
 - 3. 広川町の取り組みについて
 - 4. コロナ禍における暮らしについて
 - 5. これからまちづくりについて
- 調査期間：令和4年8月～9月
- 調査方法：郵送配付・回収、WEBアンケート
- 配付・回収：

配付数	回収数	未回収票数	回収率
2,500票	1,037票	1,463票	41.5%

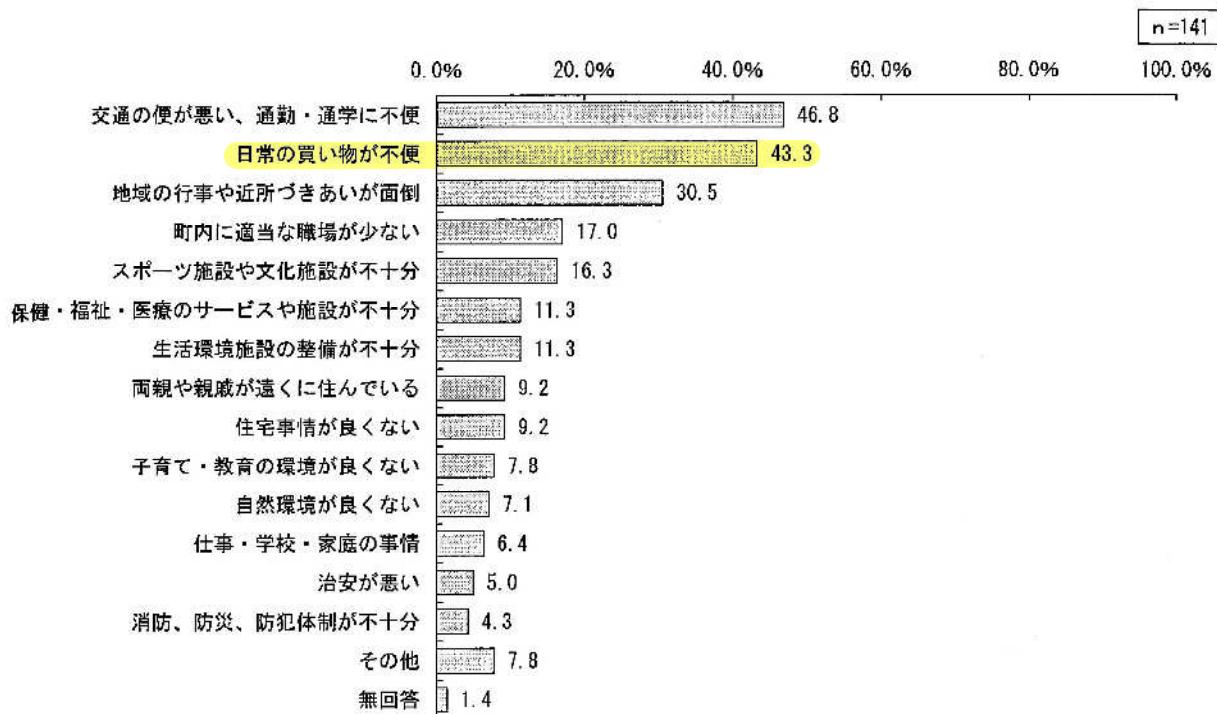
《小学生調査概要》

- 調査対象：町内の小中学生（小学4・6年生・中学3年生）
- 調査内容：新たなまちづくりに関すること
 - 1. あなたご自身のことについて
 - 2. 広川町について
- 調査期間：令和4年10月
- 調査方法：WEBアンケート
- 回収数：549票

② 住みたくない理由

○ 住みたくない理由については、「交通の便が悪い、通勤・通学に不便」が46.8%と最も高く、「日常の買い物が不便」が43.3%、「地域の行事や近所づきあいが面倒」が30.5%と続きます。

図表 住みたくない理由



	n=141	%
1 日常の買い物が不便	61	43.3%
2 交通の便が悪い、通勤・通学に不便	66	46.8%
3 地域の行事や近所づきあいが面倒	43	30.5%
4 子育て・教育の環境が良くない	11	7.8%
5 町内に適当な職場が少ない	24	17.0%
6 保健・福祉・医療のサービスや施設が不十分	16	11.3%
7 消防、防災、防犯体制が不十分	6	4.3%
8 スポーツ施設や文化施設が不十分	23	16.3%
9 生活環境施設の整備が不十分	16	11.3%
10 治安が悪い	7	5.0%
11 両親や親戚が遠くに住んでいる	13	9.2%
12 自然環境が良くない	10	7.1%
13 住宅事情が良くない	13	9.2%
14 仕事・学校・家庭の事情	9	6.4%
15 その他	11	7.8%
無回答	2	1.4%

- 年齢別による住みたくない理由についてみると、各年代とも「交通の便が悪い、通勤・通学に不便」、「日常の買い物が不便」を上位に挙げています。
- そのほか10~30歳代は「町内に適当な職場が少ない」、40歳代以上では「地域の行事や近所づきあいが面倒」を上位に挙げています。

図表 住みたくない理由（年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=18)	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 55.6%	日常の買い物が不便 町内に適当な職場が少ない 33.3%	
30歳代 (n=12)	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 41.7%	日常の買い物が不便 町内に適当な職場が少ない 33.3%	
40歳代 (n=23)	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 52.2%	日常の買い物が不便 地域の行事や近所づきあいが面倒 34.8%	
50歳代 (n=33)	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 45.5%	日常の買い物が不便 地域の行事や近所づきあいが面倒 39.4%	
60歳代 (n=27)	日常の買い物が不便 51.9%	交通の便が悪い、通勤・通学に不便 地域の行事や近所づきあいが面倒 44.4%	
70歳以上 (n=25)	日常の買い物が不便 60.0%	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 36.0%	地域の行事や 近所づきあいが面倒 20.0%

- 居住区別による住みたくない理由についてみると、各地区とも回答全体と同様に「交通の便が悪い、通勤・通学に不便」、「日常の買い物が不便」、「地域の行事や近所づきあいが面倒」を上位に挙げています。

図表 住みたくない理由（居住区別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
上広川小学校区 (n=29)	日常の買い物が不便 65.5%	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 48.3%	地域の行事や 近所づきあいが面倒 27.6%
中広川小学校区 (n=72)	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 43.1%	日常の買い物が不便 34.7%	地域の行事や 近所づきあいが面倒 30.6%
下広川小学校区 (n=35)	交通の便が悪い、 通勤・通学に不便 45.7%	日常の買い物が不便 40.0%	地域の行事や 近所づきあいが面倒 37.1%

※ 令和2年国勢調査より

◎就業者の流入人口による期待

通勤の動向については、令和2年国勢調査において、本町に常住する就業者のうち約6割が町外に通勤しているとみられています。就業者の流出人口（町内に住み町外に働きに出る就業者）が約5,100人に対して、流入人口（町外に住み町内に働きに来る就業者）は約5,300人と、若干の流入超過となっています。

のことより、約5,300人の就業者の流入人口による、「通勤時に町内で買い物を行うことができる環境作り」にも期待できると考えます。

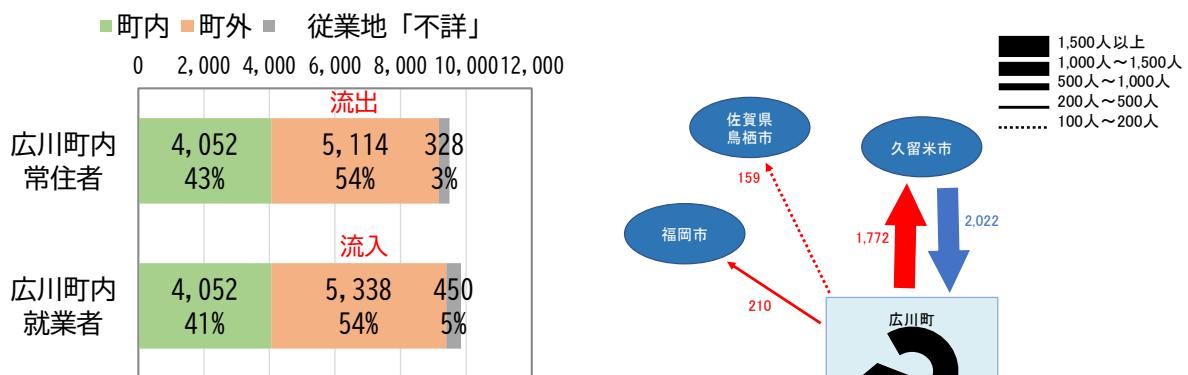


図1 通勤による人口流动

※15歳以上就業者
資料：令和2年国勢調査

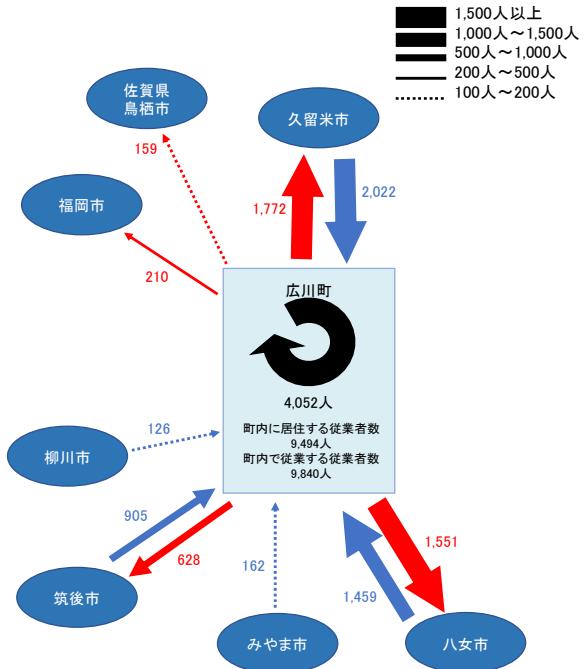


図0 通勤による人口流动状況

資料：令和2年国勢調査